

## 持続可能な開発のための教育（ESD）

### ○ESD(Education for sustainable development)

- ・ 現在、世界に存在する様々な地球規模の課題を自らの問題と捉え、一人ひとりが自分にできることを考え実践していくこと (think globally, act locally) を身につけ、持続可能な社会を創造することを目指す学習や活動。
- ・ 1992年の国連地球サミットで持続可能な開発の実現に向けた教育の重要性が言及され、その後2002年のヨハネスブルクサミットで小泉総理大臣が「持続可能な開発のための教育の10年」を提唱、ユネスコが主導機関として指名される。
- ・ 2016年2月には法政大学が文部科学省の補助により実施する「福島ESDコンソーシアム事業」の第一回成果発表会が郡山市で開催された。

図1 ESDの基本的な考え方



図2 ESDの学校教育における取組

### ①教育振興基本計画及び学習指導要領を通じたESDの推進

特徴

- 教育施策の基本的な方針等を定める**教育振興基本計画**(2008年策定、2013年改訂)の重要な理念の一つとしてESDを位置付け。
- 小、中、高等学校の**学習指導要領**に、持続可能な社会の構築の視点を盛り込み。

成果

- **全国の小、中、高等学校**において、「生きる力」を育むという理念の下、**ESDが推進**された。(総合的な学習の時間の活用等)
- ESDに取り組む多くの学校で、**年間計画やESDカレンダー**に基づき、計画的にESDが展開。

### ②ユネスコスクールを核にした取組

- **ユネスコスクール**をESDの推進拠点と位置付け、拡充。ユネスコスクール間のネットワークを強化。
- 国内18の大学間のネットワークが、ユネスコスクールの申請や活動を支援。
- ユネスコスクールの質の向上のため、ガイドラインを策定。

- 2006年に20校であったユネスコスクール加盟数は、**世界最多となる705校まで増加**(2014年8月現在)。